

オオジシギ(シギ科) 全長30センチ

7月下旬、広い田んぼの畦道でオオジシギが見つかった。

稲の背丈も大分伸びてきたので、警戒心が強く日中あまり活動しないオオジシギにとって、ここは絶好の休憩所であるようです。暫くじっとしたまま動かないオオジシギであったが、畦道から一段低い田んぼの中に降りて行った。



何といっても長いクチバシが特徴です。

長いクチバシを稲の根元や畦道の斜面などに突き刺し、餌を探し始めました。

主な餌は、ミミズ類や甲殻類、昆虫類といわれます。田んぼから畦道に戻って来たオオジシギのクチバシは土がくっついたままです。クチバシを大きく開いた一瞬であった。上クチバシの先端が上部にそりあがりました。土の中に潜む餌を感知し、挟み込むときに曲がるようです。

野鳥のクチバシは固くて曲がらないものだと思い込んでいた私にとっては、新たな発見でした。



クチバシには土が付いたままです、餌を探して来たのでしょう。



この後、上クチバシが大きく反りました。

数時間後再び現地を訪れると、畦道にはオオジシギとケリ、カルガモが仲良く並んでいた。大きさが比較できる絶好の眺めです。

一番小さいオオジシギは、ちょこちょこと畦道を歩き2羽のケリの中に割込んでいったが、ケリは嫌がる気配もなく知らん振りです。足の長いケリとの違いがよく分かりました。

又、翌日には近くの畦道で2羽のオオジシギが見つかりました。2羽とも並んで行動していたことから、つがいではないかと推測されます。



足の長いケリの間割に割込んできた。



一緒に並んで行動するオオジシギ。つがいかな？。

オオジシギは、オーストラリア等から夏鳥として本州中部の高原、東北地方から北海道の草原に渡来します。近年、生息個体数の減少が懸念されているが、ここ大仙市内で見つかったことで一安心したところです。